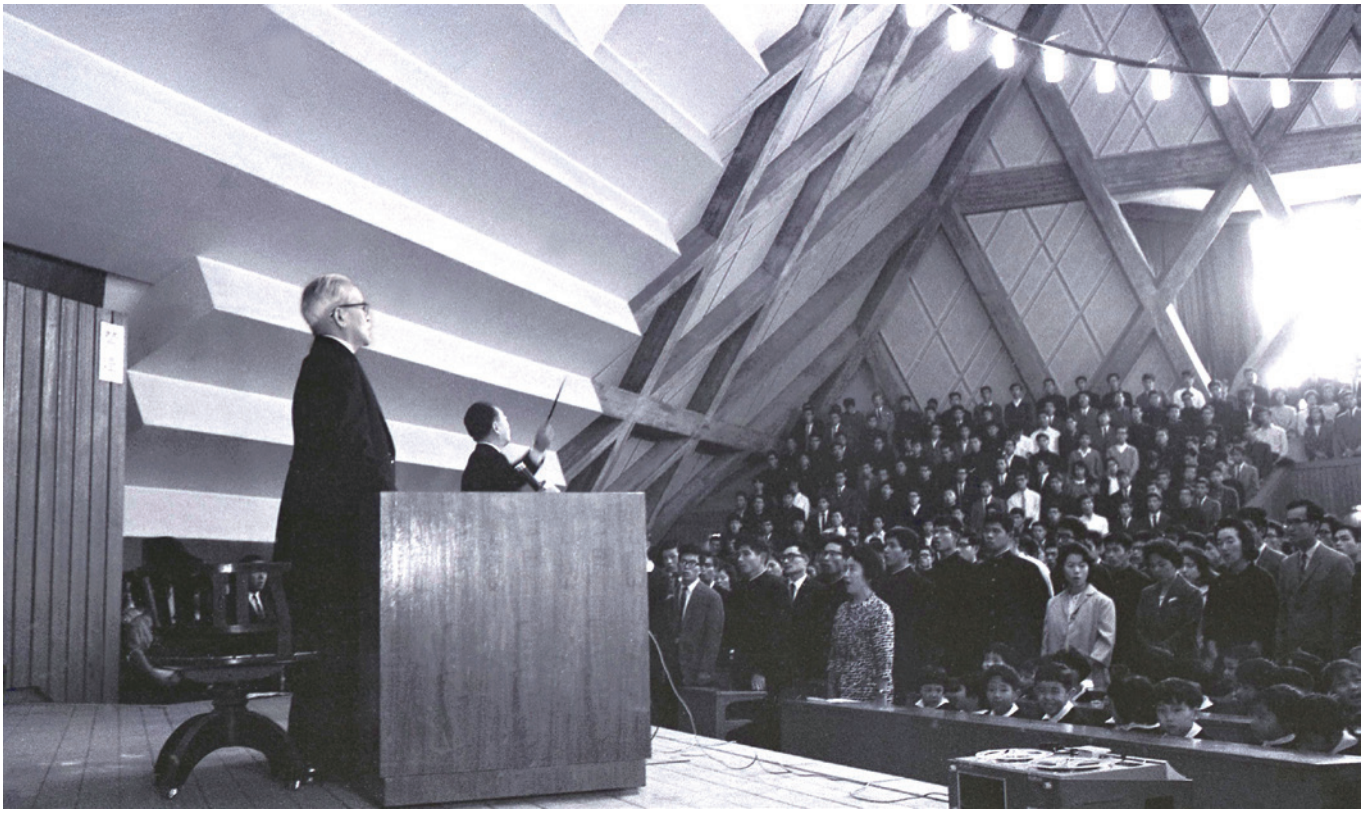
学習院アーカイブズ ニューズレター

Gakushuin Archives Newsletter　2014.2.20　vol. 03



創立 85 周年記念式典

1963（昭和 38）年 10 月 18 日、学習院創立八十五周年 私学十五周年記念式が、天皇・皇后両陛下や吉田茂元首相を迎えて大学体育館で挙行された。写真は記念式の終了後、中央教室（ピラミッド校舎）で行われた学生生徒・教職員を集めての式典。壇上は安倍能成院長。2013 年 9 月、大学学生センター教務課が所蔵していたネガフィルムから発見された。

Contents

戸山地区における史資料の保存と活用
女子大学名誉教授　松尾美惠子 …… 2

戸山キャンパスに残る兵営建築
女子中・高等科教諭　石川　和外 …… 4

講演「経営資源として大学の歴史をどう活用するか
－明治大学における実践－」をきいて　桑尾光太郎…… 6

主な活動（2013 年 7 月～ 2014 年 1 月） …… 7

戸山地区における史資料の保存と活用

女子大学名誉教授　松尾　美恵子

短大史の編纂とその後

学習院女子短期大学が女子大学に改組転換されたのは1998(平成10)年のことである。それより2年前、短大史の編纂が企画され、編纂委員会、専門委員会が組織された。翌年編纂室が設置され、期限付きの嘱託職員が置かれた。ここを拠点に学内、院内の資料収集が行われ、女子大開学後の2000（平成12）年に写真資料を主とした『図録』、2003（平成15）年に『通史・資料編』が刊行された。

短大史編纂事業を委嘱されていた私は、編纂業務の最中から、事業終了後も収集資料を保存、管理、活用し、将来の年史編纂に備えて活動する、永続的な機関としての女子大学資料館（仮称）を設けることはできないかと考えていた。大学史編纂も自治体史編纂もその事業が終わると収集資料が散逸、あるいは廃棄されることも少なくなく、それだけは避けたいと思っていた。また編纂室の嘱託職員・アルバイト職員がせっかく蓄積した知識を今後生かすことができないのは、本人は勿論、大学にとっても損失であると感じていた。しかし資料館設置にむけての具体的な方策を立てることができないまま、編纂業務終了と同時に編纂室は閉室となり、室員は退職した。あしかけ6年の間に収集した資料は元編纂室の部屋等にそのまま残された。2004（平成16）年、女子大から法人に提出された中長期計画書に、戸山地区に女子部と共用のアーカイブズ機能と展示機能を兼ねた「学習院女子大学資料館（仮称）の設置」の提案が掲載され、希望をつないだ。

資料収蔵室の設置と収蔵資料管理運営委員会の取り組み

2005（平成17）年、女子大学に学芸員課程が設置された。博物館・美術館の専門職である学芸員の養成課程の設置は、開学当初より望まれていたが、すぐ

には実現には至らなかったものである。そして学芸員課程の授業を行うには、実習室とともに、実習に用いる資料を収蔵する施設が必要で、そうした要望と、短大史編纂時の収集資料を保存することの全学的なコンセンサスがあり、2006（平成18）年、6号館の一角に収蔵棚や空調設備のある資料収蔵室が設けられ、そこに旧短大史編纂室等に置かれたままになっている資料や、卒業生等から寄贈された資料を収蔵することができた。そして資料収蔵室と2号館の展示スペース（現文化交流ギャラリー）の管理・運営、収蔵資料等の保存・管理と展示に関する事項を審議する組織として、収蔵資料管理運営委員会が発足した。

ただし、収蔵室・展示スペースとこれを管理する委員会ができても、専従の職員は置かれず、事業費というものもない。委員会メンバーの多くは学芸員課程委員の兼務で、その事務は学芸員課程事務室が行うことになっており、さらに学芸員課程事務室は大学院の事務室を兼ねている。このような条件の下で、展示については、これまで有志の教員が院生・学生を指導しつつ、学芸員課程の副手・アルバイト職員の助力を得て行ってきた。

収蔵資料管理運営委員会としては、2009（平成21）年度、戦略枠の予算によりいくつかの事業を展開した。

その頃、学習院アーカイブズの設立が日程に上り、女子部では125年史の編纂が行われていた。そこで学習院アーカイブズ準備室の桑尾光太郎氏に「学習院女子教育の歴史－新出資料から－」という演題で講演していただき、また「学習院戸山キャンパスのうつりかわり展」と題する展示を行い、江戸時代から現代に至る戸山地域の時の流れを、写真パネルや現物資料で示した。キャンパスの歴史を物語る資料は、国指定重要文化財の正門をはじめ、近衛騎兵連隊兵舎（女子大4号館・女子部B館）、笠石（華族女学校門柱）等、構内に点在しており、それらを紹介した歴史マップや、展示物を紹介したリーフレットを作成した。さらに旧近衛騎兵の方々から寄贈を受けていた写真や短大時代の写真資料を整理し、画像データベースを作成した。

2011（平成23）年にも戦略枠予算を得て、寄贈された屏風の修復・展示、資料の整理、展示ケースの増設等を行った。2012（平成24）年には従来の収蔵資料管理運営委員会の内規を改正し、規程とした。同年発足した学習院アーカイブズとの間に関連性をもたせるため、また委員会の組織を整え、機能の充実を図るためであった。

戸山地区の史資料の今後

短大史編纂後の状況から、近年の収蔵資料管理運営委員会の取り組みまで、およそ10年の経過をたどってみると、資料収蔵室が設けられて、編纂の過程で収集した資料の散逸が避けられただけでなく、学芸員課程と協力して、教育･研究に資する種々の展示が、文化交流ギャラリーにおいて、コンスタントに行えるかたちは整えられたといえる。

しかし、資料収蔵室の史資料は、諸方面から寄贈された物品、図書館から移管された絵画、教育・研究用に購入した古文書等、年々増加しており、その整理、目録作成等は進んでいない。また資料収蔵室にある短大･女子大の記録･文書は短大史編纂に際し、教員・卒業生から寄贈されたものが中心で、学内各部署で保管されているものや、外部倉庫に預けられているものについては、収蔵資料管理運営委員会として把握しておらず、2012年に学習院アーカイブズの要請、協力により調査がなされたものの、女子大としての整理作業には至っていない。現用を終えた事務文書の扱いもまだ検討されていない。

課題は多いが、今後のために必要なことは何か、第一に人の配置である。これまでは、短大史の編纂や収蔵資料管理運営委員会の設立等に関わった教職員が、自らの意識・意欲に基づいて女子大の史資料の保存・利用体制の整備に向けて動いてきた。しかしそのような人々は順次、退職、あるいは異動していく。また史資料の整理や展示そのものが委員会の業務というわけでもない。すなわち、資料収蔵室に専属し、恒常的に資料を整理し、目録を作成し、電子化を進め、常設展示を行う、専門的知識・能力を備えた職員の配置が必須である。第二に恒常的な予算措置である。収蔵資料管理運営委員会がこれまでに行った事業はすべて年度限りの戦略枠予算によるものであった。資料整理や展示を継続的に行うためには、常時そのための経費が必要であることはいうまでもない。第三に保管スペースの確保である。学習院アーカイブズにおいては、戸山地区の女子中・高等科と女子大学は、今後の建設計画の中で保管スペースを確保し、独自に記録史料の管理を行うことになっている。各所に存在する膨大な文書・記録を一括して保存・管理するには、教室を改造した現収蔵室ではいかにも狭隘である。将来、女子大の新研究棟が別に建設されたならば、そのあとの4号館（女子部B館）がその場所にもっともふさわしいと思うのは私だけではないだろう。

百年の風雪に耐えた歴史的建造物の中に女子部と女子大の共同施設としての「学習院女子教育資料館」（仮称）が設置され、戸山地区の史資料が教育・研究・展示・広報等に有効に活用され、それぞれの年史編纂に備える日が来る……一退職教員の今年の初夢が正夢になるよう願っている。

付記：松尾先生は、学習院女子短期大学・学習院女子大学で日本近世史の研究教育に当たるとともに、『半世紀　学習院女子短期大学史』編纂の重責を担われました。2008年に学習院アーカイブズ設立準備委員会作業部会に参加されて以来、学習院アーカイブズ発足後も2013年3月まで同運営委員会委員をつとめられました。学習院大学文学部史学科（1961年開設）の第一期生でもあり、現在は地方史研究協議会会長として活躍されています（学習院アーカイブズ）。

戸山キャンパスに残る兵営建築

女子中・高等科教諭　石川　和外
（学習院アーカイブズ運営委員）

現在、学習院女子中等科・女子高等科と学習院女子大学がある戸山校地は、江戸時代は尾張藩徳川家の広大な下屋敷の西北部分であった。この下屋敷は「戸山山荘」などと呼ばれ、17 世紀後半、2 代藩主徳川光友の時代に設けられた。尾張徳川家は、この屋敷に地形を生かした池泉回遊式の庭園や東海道の宿場を模したとされる「御町屋」を設けるなど、数々の趣向を凝らした。その庭園の面影は、現在戸山公園内にある「箱根山」辺りにわずかに残っている。

1871（明治 4）年、戸山屋敷は天皇の護衛兵である御親兵の駐屯地となり、73（明治 6）年には陸軍兵学寮の戸山出張所となった。翌年、陸軍戸山学校と改称される。この学校では、将兵･下士官に射撃･体操･剣術などを訓練した。さらに、陸軍幼年学校、陸軍軍医学校なども設置された。そして、1912（明治 45）年 4 月から翌 13（大正 2）年 3 月にかけて、現在の戸山校地の辺りに近衛騎兵連隊が麹町元衛町（現千代田区大手町）から移転する。

近衛騎兵連隊は、陸軍で最も伝統のある騎兵部隊として、日清・日露戦争などに出征し、また平時には儀仗任務（天皇行幸に供奉するなど国家儀礼を担う）にあたる花形部隊であった。兵営内には、連隊本部、兵舎、将校集会所、炊事場・風呂場、厩舎、器材庫、被服庫などの建物が続々と建設された。

1945（昭和 20）年 5 月の空襲で青山の校舎を焼失した女子学習院は、翌 46 年 3 月、護国寺仮校舎での卒業式を終え、戸山の近衛騎兵連隊跡に移転した。兵舎は本部と中等科以上の教室、連隊本部は初等科の教室、炊事場は割烹教室、被服庫は理科教室、器材庫は仮講堂、将校集会所は礼法室、医務室は音楽教室、厩舎は雨天体操場などにあてられた。これら建物は、取り壊しや焼失などにより次第に姿を消し、現在も残るのは旧兵舎（現女子部Ｂ館・女子大学 4 号館）と旧炊事場・風呂場（現女子部Ｃ館・常磐会事務局）のみとなった。

旧兵舎と旧炊事場・風呂場は、堀川利尚の請負で建設された。堀川は、大倉喜八郎（大倉財閥の創業者）とともに鹿鳴館建設を請け負った人物で、建物に残る壮麗な意匠と丁寧な施工に一流請負師としての手腕と意識が反映されている。この兵営建築を「読売新聞」（明治 45 年 4 月 16 日付）は「巍然たる大建築」と伝えている。

①戦後初期の旧兵舎（現女子部Ｂ館・女子大 4 号館）

旧兵舎（写真①）は、1913（大正 2）年に竣工した建物である。外壁はイギリス積煉瓦、小屋組は 2 階建て木造洋小屋である。建物北側出入り口の上部にみられるアーチ型の意匠は、竣工当時のものである。また、中心に菱型の照明用の取り付け部分がある格子に組まれた天井も、連隊時代の遺構である可能性が推定される。2010（平成 22）年に行われた調査では、この建物の外壁に特徴的にみられる鉄筋コンクリート造の付柱や梁は、建造当初のものではなく、関東大震災後に補強のために加えられたことが判明した。1993（平成 5）年、隣接する 7 号館建設のため、西端部分約 20% が切除され、屋根が瓦葺からスレート葺に改修された。2011（平成 23）年、女子部Ｂ館の倉庫から偶然、ブロンズ製の

②外灯

外灯が発見された（写真②）。昭和20年代の写真から、この建物の南側出入り口の上部に取り付けられていたものと判明した。女子学習院の戸山移転後、この建物は「本館」と称された。そして、2010（平成22）年の新本館建設まで女子部の中心的な校舎として、教室、音楽教室、裁縫教室、図書室、保健室、教科準備室など様々な用途に使用された。1950（昭和25）年以降は、学習院大学短期大学部（現学習院女子大学）もこの建物の一部に設けられ、現在も研究室として利用されている。

③女子部C館

旧炊事場・風呂場（写真③）は、1912（明治45）年に竣工した桟瓦葺切妻造、煉瓦造平屋の建物である。外壁は兵舎同様イギリス積の煉瓦壁である。建物の東側が炊事場、西側が風呂場として使われていた（写真④）。2010（平成22）年に全面改装工事されるまで、建物内部も比較的原状をとどめていたと考えられ、建造当時から使用されていた鉄製金具の付いた木製の引き戸なども残されていた（写真⑤）。屋根は、現在も瓦葺が維持されているが、建造当初には煙抜けのための小屋根が設けられていた。

文化財保護行政を統括する文化庁記念物課は、1996（平成8）年度から近代遺跡の全国調査を始め、2002（平成14）年、「近代遺跡の調査等に関する検討会」により、軍事に関する遺跡544件から「旧近衛騎兵連隊遺跡」を含む50件が選定された。

④近衛騎兵連隊時代の炊事場

⑤C館内の引き戸（2010年）

戦後69年がたち、戦争体験者が少なくなる中、戦争遺跡の歴史的価値は今後一層高まるであろう。兵営建築を学校の校舎として現在も使用している事例は、聖母女学院（京都市伏見区）などが知られるが、多くはない。学習院関係者のみならず、市民共有の近代化遺産・歴史遺産として建物を保存・有効活用することが求められている。

参考文献

・『学習院女子中等科 女子高等科125年史』（2010年）
・『半世紀 学習院女子短期大学史 通史・資料編』（2003年）
・『続 しらべる戦争遺跡の事典』（十菱駿武他編 柏書房 2003年）
・文化庁文化財部記念物課「近代遺跡調査報告書 軍事」
・「学習院女子大4号館・女子部B館及び女子部C館についての現状調査報告」（杉山経子建築＋デザイン研究室 2010年）
・「学習院女子大4号館・女子部B館及び女子部C館についての背景調査報告」（杉山経子建築＋デザイン研究室 2011年）

講演「経営資源として大学の歴史をどう活用するか ―明治大学における実践―」をきいて

桑尾　光太郎

2013（平成25）年11月21日、明治大学大学史資料センターの村松玄太氏を講師に迎え、第3回学習院アーカイブズ講演会が開催された。村松氏は明治大学のアーカイブズである同センターの職員として、大学史資料の調査収集・整理・研究等に幅広く活躍されており、筆者とは全国大学史資料協議会での活動を通じて十年来の交流がある。明治大学は同協議会の会長校をつとめるなど、全国の大学で展開されている年史編纂、史資料の整理・保存・研究、展示、自校史教育など、大学アーカイブズに関わる活動をリードする存在であり、筆者も学習院アーカイブズの立ち上げと業務の進め方にあたって、幾度となく村松氏からアドバイスをいただいてきた。

村松氏は講演の冒頭で大学史資料センターの概要を紹介したのち、「大学の歴史はどう役に立つのか？」を問い、同センターの業務において蓄積された資料や情報、つまり「大学アーカイブズ構築資源」（以下〈資源〉と略記）が、単に過去の遺物ではなく、これから大学を運営するうえで有効な存在であることを強調した。そして大学アーカイブズの要件として、〈資源〉の構築＝大学の営みやそれに付随する資料の収集、〈資源〉の公開、〈資源〉の広報（有用性のアピール）を挙げ、〈資源〉を活用した具体例として、2011（平成23）年に行われた明治大学創立130周年記念事業の数々が紹介された。

130周年事業への参画を、村松氏は〈資源〉を活用して広くアピールする絶好の機会ととらえ、自ら周年事業事務局担当を兼務して下記のような企画を立案・具体化していった。

①『明治大学小史（人物編）』など6点＋外国語版4点、DVDの編纂刊行

②展示：「明治大学〈個〉を強くする130年」「明治大学の国際交流130年」「三木武夫展」など5会場における展示、阿久悠記念館の開設

③各種イベント：神田・神保町中華街プロジェクト（京劇・獅子舞パレード、味の祭典スタンプラリー等）、三省堂書店ブックフェア、阿久悠歌謡祭ほか

紹介された企画の数とバリエーションには圧倒されたが、ほとんど村松氏の発案と事務運営によって実現したものである。たとえば展示構成では、冒頭に「教育研究組織のいま」を置いて最もボリュームを割くなど、平板な歴史叙述に陥らない工夫が行われた。村松氏はこうした企画をこなすことによって、アーカイブズの学内の認知度が上がり、学生を含めての学内連携にも寄与したのではないかと控え目に語っておられたが、地域との連携・メディアからの注目も含めてその効果は大きく、アーカイブズのもつ〈資源〉を、明治大学の現在ならびに未来への展望に存分に活用したことは間違いない。当時の村松氏の八面六臂の活躍ぶりには目を見張るものがあり、アーカイブズ云々はさておき氏の大学職員としてのポテンシャルの高さを強く感じた。学習院の中にも積極的な企画・提案を行い、かつ実行していく職員が次々と登場してもらいたいものである。

学習院は明治大学に並ぶ歴史をもち、〈資源〉となりうる資料・情報もそれなりに持っている。その〈資源〉を掘り起こし、活用できるよう準備することが学習院アーカイブズの役割であり、今後にむけての課題は多い。ともあれ明治大学を参考に、さまざまな形で〈資源〉を学校運営に役立たせていきたい。

（学習院アーカイブズ職員）

主な活動
（2013 年 7 月～ 2014 年 1 月）

◆文書ファイルの整理・管理

①各事務部署における文書ファイル管理簿の作成、保存期間の設定、色別シールの貼付
（平成24年度から遡って平成15年度までの文書ファイルを対象として）

②西 5 号館地下倉庫等に収蔵する非現用文書ファイル等の仮目録作成および評価選別基準案の作成
（平成 14 年度以前の文書ファイルを対象として）

整理中の文書ファイル

◆文書・資料の調査・整理及び目録作成

①募金部移管文書・写真他の受入れと選別整理（2013 年 6 月～）

②初等科所蔵文書資料の調査および目録作成

③女子部史料室所蔵写真の選別、図書館史料室所蔵資料の整理（目録との照合・デジタル化他）

女子部での写真選別作業

◆史資料のデジタル化・修復

①大学図書館所蔵『学習院大学新聞』『学習院年報』のマイクロ撮影およびデジタル化

②「例規録」（学習院アーカイブズ蔵・大正期）のマイクロ撮影およびデジタル化

③幼稚園所蔵写真（APS フィルム）のデジタル化

④自動演奏ピアノの修理･調律（2013 年 7 月･12 月）

⑤「教育部ヘノ請願案」（学習院アーカイブズ蔵、1946 年作成の文書で劣化が激しい）の修復

◆史資料の受贈・購入

①「昭和十九年四月十五日　新入学生初等科見学所感　訓育部」（2013 年 7 月）

②明治 30 年代ラグビー練習風景写真（四谷校地）（2013 年 10 月）

③安倍能成書「山静似太古　日長如小年」（2013 年 10 月）

④「学習院一覧」大正 2,3,4,9,10 年度（2013 年 11 月）

◆史資料の移管

①創立 85 周年記念式典アルバム（2013 年 9 月、大学学生センター教務課より移管）

②櫻井和市元院長所蔵、三島由紀夫署名入り著作（2013 年 10 月、文学部ドイツ語圏文化学科より移管）

③学習院構内建造物の内・外部写真アルバム（2013 年 10 月、大学図書館より移管）

④学習院 36・38 会卒業五十周年同期会寄せ書き（2013 年 12 月、役員室より移管）

⑤あるびよんくらぶ写真アルバム（1960 ～ 80 年代）（2013 年 11 月、大学学生センター学生課より移管）

◆講演会・教育支援・広報支援等

①学習院ホームページ・リニューアルへの協力・支援（2013 年 7 月）
学習院の歴史のページを新たに設け、以下の見出しをたてて叙述

1. 京都の源流　2. 学習院の開設と近代国家の建設　3. キャンパスの変遷と学生　4. 独自の女子教育　5. 戦時下の学習院　6. 廃墟からの再起　7. 私立学習院の出発　8. 戦後の成長と発展

②『学習院広報』90 号「特集安倍能成と学習院」の執筆編集（2013 年 7 月）

③学習院アーカイブズ講演会、村松玄太講師「経営資源として大学の歴史をどう活用するか－明治大学における実践－」（2013 年 11 月 21 日）

④大学院アーカイブズ学専攻授業「記録史料学研究Ⅰ」（青木祐一助教）への協力

⑤大学基礎教育科目「近代日本と学習院」「記録保存と現代」（講師 桑尾光太郎、2013 年度）

◆史資料の貸出し・展示協力

①乃木神社「御鎮座九十年祭　特別宝物展」への資料貸出（2013 年 9 月）

乃木神社で展示中のアーカイブズ所蔵資料

②学習院大学史料館・永青文庫・東洋文庫三館連携展示「東洋学の歩いた道」への協力・資料貸出（2013 年 10 月～ 12 月）

③高等科・大学史料館連携授業（高等科生によるミニ展示）への協力（2013 年 11 月）

◆学外資料の調査・収集

①愛媛県生涯学習センター所蔵安倍能成関係資料調査・撮影（2013 年 8 月）

②日光金谷ホテル（昭和 20 年初等科疎開先）施設見学、資料調査（2013 年 9 月）

③宮内庁書陵部・宮内公文書館所蔵資料の調査（2013 年 10 月）

④秩父宮ラグビー場・明治神宮外苑テニスクラブ内、女子学習院遺構調査（常磐会に同行、2013 年 11 月）

⑤長野県松本市旧開智学校・旧制高等学校記念館視察・所蔵資料の調査（2013 年 11 月）

旧開智学校所蔵資料

◆年史編纂支援

①『学習院女子中等科 女子高等科 125 年史』改訂増刷作業（2014 年 1 月～）

◆その他

①東北大学史料館主催シンポジウム参加、施設見学・業務取材（2013 年 9 月）

②全国大学史資料協議会総会・全国研究会への参加（会場明治大学、国立公文書館、2013 年 10 月）

◆平成 25 年度　学習院アーカイブズ運営委員会　委員

森田道也（委員長・常務理事・学習院アーカイブズ室長）
尾浪英人（総合企画部次長）　石井博幸（総務課長）　羽山裕（人事課長）　鈴木薫（財務課長）　宮村博（施設部長）
保坂裕興（大学文学部教授）　岩淵令治（女子大学国際文化交流学部教授）　加藤政夫（高等科教諭）　森内隆雄（中等科教諭）
延智子（女子中・高等科教諭）　石川和外（女子中・高等科教諭）　中山章（初等科教諭）　轟浩美（幼稚園教諭）
長岡修司（学習院アーカイブズ事務長）　桑尾光太郎・山岸尋明（学習院アーカイブズ職員）

資料提供のお願い

学習院の歴史を示す書類・写真・印刷物などをお持ちでしたら、ご教示くださいますようお願い申しあげます。クラブ活動やゼミ活動・文化祭の記録、写真、時間割、記念品、映像フィルム等々、在学・在職時代の思い出の品々が貴重な歴史資料となります。

学習院アーカイブズ・ニューズレター第3号
2014（平成 26）年2月20日発行

編集・発行　学習院アーカイブズ
Gakushuin Archives
〒 171-8588　東京都豊島区目白 1-5-1
TEL　03-3986-0221（内線 2531、2551）
事務室　西5号館（本部棟）地下1階